

11月定例市長記者会見次第

日時：平成27年11月13日(金) 午前9時30分～／場所：庁議室

1 開 会

2 話 題

(1) 市長話題提供

①ローマ法王への掛川茶の献上とお茶振興について 【お茶振興課】資料1

②東日本被災地視察（11月8日～10日）の概要について（報告） 【危機管理課】資料2
（茨城県常総市・福島県南相馬市ほか視察、山形県長井市との防災協定の締結）

③地域創生総合戦略の策定について（報告） 【企画調整課】資料3

資料3-1 掛川市地域創生総合戦略冊子

資料3-2 平成27年度国地方創生先行型交付金の事業採択等について

資料3-3 常葉大学との包括連携に関する協定締結式の開催について

④第9回かけがわ教育の日について 【教育政策室】資料4

(2) 主な行事について

①掛川市人権講演会 【福祉課】資料5

日 時：11月22日(日) 13:30～

場 所：文化会館シオーネ・小会議室

②掛川国際交流フェスティバル2015 【生涯学習協働推進課】資料6

日 時：11月22日(日) 10:00～

場 所：掛川市生涯学習センター

③吉岡彌生記念館「音楽会の日」 【吉岡彌生記念館】資料7

日 時：11月23日(月・祝) 10:00～11:00、13:30～16:00

場 所：吉岡彌生記念館

④第2回環境消費生活展 【商工観光課】【環境政策課】資料8

「暮らしのフェスタ2015」

日 時：11月28日(土) 10:00～15:00

場 所：生涯学習センター（御所原）

⑤第16回市町対抗駅伝

【社会教育課】

日時：12月5日(土) 9:00スタート

場所：静岡市内

⑥平成27年度 掛川市地域防災訓練

【危機管理課】資料9

日時：12月6日(日) 9:00～12:00

場所：市内全域

⑦男女協働参画フォーラム「平山幸子トークショー」

【生涯学習協働推進課】資料10

日時：12月15日(火) 12:10～13:00

場所：市役所ロビー

3 質疑応答

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

4 閉会

次回定例記者会見(予定) 平成27年12月7日(月) 午前9時30分～ 庁議室



SEGRETERIA DI STATO

PRIMA SEZIONE - AFFARI GENERALI

資料 1

Dal Vaticano, 23 ottobre 2015

N. 83.481

Illustrissimo Signore,

con premuroso gesto, Ella, per il cortese tramite dell'Em.mo Signor Cardinale Francesco Monterisi, e a nome dei Concittadini, ha fatto pervenire in dono al Santo Padre, quale testimonianza di ossequio e devozione, un set per la preparazione del tè verde.

Sua Santità ringrazia per il gentile atto di omaggio e per i sentimenti che l'hanno suggerito e, mentre formula cordiali auspici di sempre proficua attività a servizio del bene comune, chiede di pregare per Lui e di cuore imparte a Lei e a quanti si sono associati nel deferente pensiero la Benedizione Apostolica.

Con sensi di distinta stima.

✠ Angelo Becciu

Sostituto

Illustrissimo Signore
Sig. MATSUI
Sindaco di Kakegawa
GIAPPONE

(駐日ローマ法王庁大使館 訳)

教皇庁国務省

2015年10月23日、ヴァチカンより

N.83.481

掛川市 市長
松井 三郎 殿

この度は、掛川市民の皆さまを代表し、ローマ法王への敬愛と尊敬のしるしとして、ご丁寧に、お茶のお道具一式を、フランシスコ・モンテリージ枢機卿を通して法王のもとにお届けくださり誠に有難うございました。

法王は、市長様の温かなお心遣いのご厚情に深く感謝いたしております。公益に従事される市長様の今後ますますのご活躍とご健勝をお祈り申し上げますと共に、市長様のため、そして関係者の皆さまのために心からの使徒的祝福をお届けいたします。どうか法王のためにもお祈りください。

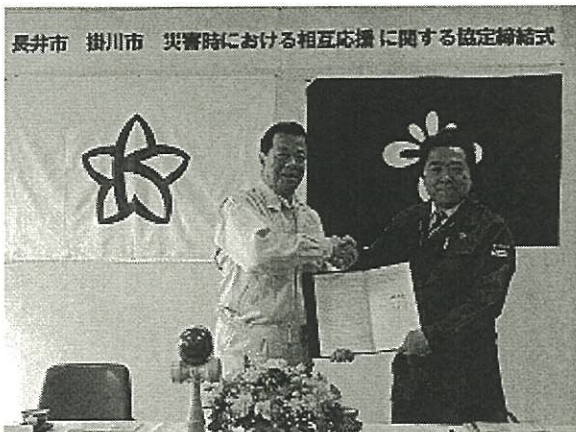
敬愛の念を込めて

ローマ教皇庁 国務省長官代理
+アンジェロ・ベッチウ大司教

東日本大震災被災地視察 報告書



常総市鬼怒川決壊現場



長井市との災害応援協定締結



南相馬市小高駅前に置かれた除染廃棄物

平成 27 年 11 月 8 日 (日) ~ 11 月 10 日 (火) 3 日間

(茨城県) 常総市
(山形県) 長井市
(宮城県) 名取市、岩沼市
(福島県) 南相馬市、富岡町

掛 川 市

東日本大震災被災地視察

- 1 目的 被災地及び先進地の被災状況、災害対応を視察し掛川市の防災対策に役立てるため。
- 2 視察日程 平成 27 年 11 月 8 日（日）～11 月 10 日（火） 3 日間
- 3 視察概要 東日本大震災から 4 年 8 か月が経過した被災地の復興状況や復旧が始まったばかりの原子力災害被災地を視察すると共に、9 月に襲来した台風 18 号の豪雨により鬼怒川が氾濫し、甚大な被害が発生した常総市の被災地も視察をした。また、今回の視察では、被災地の視察だけではなく、「災害時相互応援協定」の締結と 3 月に実施したレクイエム収益金の寄付を行った。
- 4 視察先 1 日目 茨城県常総市
2 日目 山形県長井市、宮城県名取市、宮城県岩沼市
3 日目 福島県南相馬市
- 5 視察者 松井市長、小林都市建設部長、浦野危機管理課長、
石山秘書広報室秘書官、杉山危機管理課主任、戸塚危機管理課主任

6 市長所感

宮城県名取市と岩沼市では、津波対策と復興状況について視察いたしました。名取市の閑上地区では、やっと住宅地の嵩上げ工事が始まり、時間は掛かりましたが、復興の槌音が聞こえてきました。隣の岩沼市では、国の巨大な海岸堤防が完成し、津波被害から市民や地域を守る多重防御として、避難マウントの千年希望の丘、嵩上げ道路の整備や海岸地区の集団移転の進捗状況など、市民が安心して住めるまちづくりを進めている様子をうかがいました。掛川市も同様に掛川モデルによる L2 津波に対応する防災林の整備や津波避難施設の整備を進めることが、市民の安心安全に繋がり、居住者を増やしていくことになると感じました。

山形県長井市では、「災害時相互応援協定」の締結を行い、南海トラフ巨大地震による被害が及ばない地域からの支援が、より期待できるようになりました。

福島県南相馬市では、原子力災害の視察を行い、現在でも市内に、「帰還困難区域」や「居住制限区域」などが存在し、未だ多くの市民の方が避難生活を強いられていることや、来年の 4 月の解除を目指し「居住制限区域」などで除染作業が本格化している状況について伺いました。除染作業中の小高駅では、震災当時に通学に使われていた自転車が手つかずで駐輪場に放置されている様には、心が痛みました。さらに、9 月から通行ができるようになった国道 6 号を通りましたが、「帰還困難区域」では、車から降りることも許されず、線量計も一般の地域とは違い高い数値を示していました。

原子力災害は、地震や津波とは被害状況が全く違い、復興には長い時間が掛かることを

目の当たりにし、原発事故は絶対に起こしてはならないと、改めて感じました。

また、3月に掛川市と掛川市生涯学習振興公社生涯学習センターの主催で開催した「バチカンから日本へ 祈りのレクイエム日本公演」の収益金121万4,116円を、復興事業に役立てていただくため、全国報徳研究会市町村協議会で災害相互応援協定を締結していることもあり、南相馬市社会福祉協議会に義援金として寄附をしてまいりました。

茨城県常総市では、9月に鬼怒川の堤防が決壊して、市域の1/3が浸水し、未だ300人弱の市民が避難生活をしており、洪水被害への対応やボランティアの受け入れ状況などについて、うかがいました。常総市は東西に長い地形で、市の中央を縦断する形で鬼怒川が流れており、西側が小高い地域となっています。被害は、鬼怒川の東側を平行して流れる小貝川に挟まれた地域が浸水区域となっていました。鬼怒川が決壊と同時に3基ある国交省の内水氾濫の排水機が運用規定で停止され、被害の拡大に繋がったことや、市内での避難が完結することが前提であったため、決壊した鬼怒川を越えての避難指示となったことなどを伺いました。掛川市では、現在各家庭で作成していただいている災害種別ごとの「家庭の避難計画」も、自主防災会や地区の範囲を超えた広域避難を考えていく必要を強く感じました。

今回の視察経験を、様々な災害において迅速で的確な情報提供に繋げることや現在策定中の原子力災害広域避難計画への反映、土砂災害避難訓練の実施などに活かしてまいります。

7 視察内容

■ 茨城県常総市

目的：平成27年9月10日の台風18号による鬼怒川が決壊で甚大な被害を受けた災害対策本部及びボランティアの受入、避難所の確保についての常総市の災害発生時における対応状況の把握を行う。

1 平成27年9月の豪雨災害の内容、対応の状況について

- ・ 鬼怒川上流では、台風18号や秋雨前線、温帯低気圧の影響で、暖かく湿った風が吹き込み「線状降水帯」と呼ばれる積乱雲が帯状に次々と発生し、長時間にわたって強い雨が降り続いた。
- ・ 鬼怒川の常総市内の越水箇所は44か所あった。
- ・ 鬼怒川決壊による浸水範囲は約40km²となり、水街道地区では一週間近く浸水が続いていた。ポンプ車51台により800万m³（東京ドーム約6杯分）の排水を行った。
- ・ 決壊した堤防は未改修で、計画より1.0m低い状態だった（発災時は知らなかった）。
- ・ 小貝川は30年前決壊しその後、スーパー堤防に改修されていた。
- ・ 鬼怒川に流れ込む水路にある3つの排水ポンプが、本流を氾濫させないため国土交通省により止められた。市は止めないように交渉を続けたが動かさなかった。
- ・ 決壊した堤防の改修は、「激甚災害法に基づく適用措置（局激）」により5か年で整備が行われる。
- ・ 広域避難の際、避難所の収容人数を把握してなかったことから、混乱が生じた。

- ・ 鬼怒川と小貝川の河川に挟まれた地域が浸水し、小貝川東側は他市となり、西側は鬼怒川を越えなければならず、いずれにしても避難には危険が伴い、避難先の判断が非常に難しかった。
- ・ 住民が被災した時の国の補助があまりにも厳しい。所得制限によりほとんどが対象外となってしまう。半壊住宅は特に厳しい。
- ・ 災害救助法の内容は、今の生活様式に合っていないため、県や市で独自の制度を設け家屋復旧などの補助対応をしている。
- ・ 自衛隊の要請は県を通じて実施した。
- ・ 外国人への情報提供は臨時FM局を活用した。
- ・ 災害対策本部は庁議メンバーで構成、事務局は市民安全課。
- ・ 建設業組合では、あらかじめ土のうの対応をしていた。
- ・ 決壊場所から上流で越流した場所は民地で、太陽光の事業者が自然堤防を取り崩してしまったため、地元の要請で国が一時的に土のうを積んだ。

2 ボランティアの受入について

- ・ 市の依頼により社協が開設。市職員が配置される予定だったが、連絡が取れず、独自の判断で運営した。
- ・ ボランティアにまぎれてドロボーが多いため、シールを張るなどの区別を行った。
- ・ 発災から3日後にボランティアセンターを立ち上げ、4日目から受け入れを行った。
- ・ 受け入れ場所をどこにするのか、駐車場の確保をどうするのかなど難しい判断だったが、守谷駅や工場の敷地を拠点としバスで移動することとした。
- ・ ボランティアセンター立ち上げ当初から自主的にNPO団体が次々に来て、運営にあたってくれたので非常に助かった。
- ・ どこでどのような作業が必要かといった作業の内容や、何人必要かなどのマッチングが困難だった。
- ・ NPO団体と一体となって対応していくことが重要。

3 鬼怒川決壊現場周辺の現場視察について

- ・ 既に決壊した場所は従前の高さで堤防復旧が進んでいたが、道路等は工事中で通行止めの状態となっていた。
- ・ 周辺の住宅は基礎が浮き上がった状態など、そのまま残されていた。



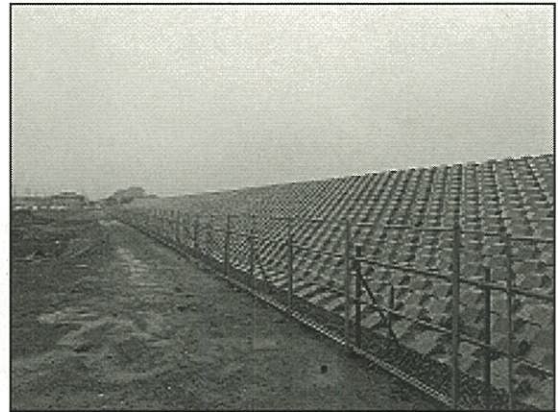
【決壊付近】被災した家屋と復旧した堤防(奥)



【決壊付近】被災した家屋



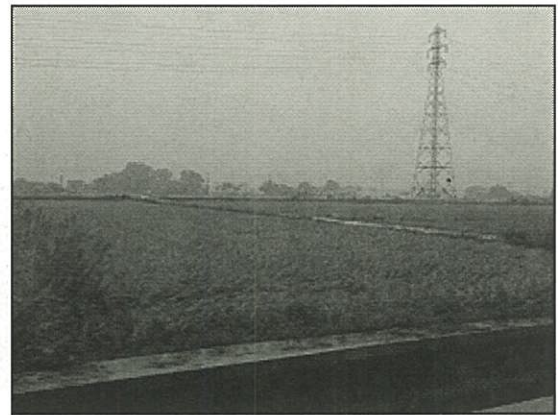
【決壊場所付近】破壊された道路の復旧作業



【決壊場所】2週間で応急復旧した堤防



【冠水地域】泥の除去を行うボランティア



【冠水地域】浸水による稲の被害

4 常総市視察の感想

避難等を定めて訓練しておくため、掛川市が進めている災害種別ごとの「家庭の避難計画」も自主防災会や地区の範囲を超えた広域避難について考え、全ての方が防災訓練に参加することで、命を守る行動をとれるようにしてゆく必要を感じた。

市役所職員も災害はいつ、どこで起こりうることを頭に置き、情報収集を怠らず状況に応じ臨機応変に対応出来ることが必要である。

■ 山形県長井市

人口：28,006人（9月末） 世帯数：9,756世帯（9月末）

目的： 南海トラフ巨大地震の被災を受けない遠隔地の長井市と協定の締結を行い、協定市の状況について視察を行い、災害が発生した場合に支援が円滑に遂行できる体制を整備する。

1 災害時相互応援協定締結式について

長井市長、副市長はじめ、危機管理室ほか関係部署が出席され、両市の市長が署名・挨拶を交わし締結式が行われた。長井市は花の里として整備している「あやめ公園」では、掛川市の加茂花菖蒲園に菖蒲の原種を譲り、営業の指導として絵付けの指導を受けるなど、以前から関わりを持っていた。

「長井市長挨拶の概要」

東日本の被災地を自ら視察しながら防災対策に繋げていて素晴らしい。この協定締結をきっかけに、いろいろな面でつながりを発展させていきたい。お互いに助け合う関係を築きくことを希望する。

「掛川市長挨拶の概要」

お互いが知り合って一年もたたないうちに協定締結ができたことは大変ありがたい。原子力災害時の避難や地震対策を含めて、万が一の場合に備えてお互いに助け合って、市民の安全・安心を確保していきたい。



締結式の様子

「協定の概要」

- ・食料、飲料水及び生活必需品、資機材の提供
- ・救援、救助活動に必要な車両の提供
- ・被災者の救出、医療、防疫、応急復旧に必要な医薬品、資機材の提供
- ・救援、応急復旧に必要な職員の派遣
- ・避難者の一時収容施設の提供、ボランティアの斡旋

2 災害時に活動に役立てるため防災施設を視察

長井ダムは、東北地方で有数の大規模な重力式コンクリートダムで、高さは125.5m、長さ381m、大きさ約120万m³。洪水の調整利用や水力発電、農業用水に利用され、発電能力は長井市全域を賄うことができ、現在は東電に売電している。

災害時の情報提供として広報車、メール、コミュニティFM、ホームページを活用している。

3 長井市視察の感想

南海トラフ巨大地震による被害が及ばない地域からの支援や長期避難場所の確保ができた。

また、以前から文化的にも交流があることが判明したこともあり、他のさまざまな分野においても交流を広げていく。

■ 名取市関上地区

目的： 震災以降の毎年視察している地区における復興状況の把握

1 関上地区の状況の視察

掛川市単独で視察を行い、港は復旧されていた。しかし住宅地の復旧は進んでおらず建物はまだ建てられていない。やっと住宅用地の盛土工事がスタートした状態にある。防潮堤の工事が引き続き進められていた。

住宅の復旧は、市が復旧計画を策定し、住宅地で5.0m嵩上げすることとし、以前住んでいた住民に戻ってもらう計画であった。しかし、海岸が近く港と名取川が近接している地区であるため、帰還希望者が少なく事業が進んでいない。住宅の嵩上げや堤防の改修では市民が安心して住める状況ではない。結果、住民が地域に戻るためには、さらなる検討が必要と考える。



【関上港付近】住宅用地の盛土工事

2 名取市視察の感想

住宅地の嵩上げや堤防の改修のみでは、住民が安心して住める状況を作り出せないと感じた。

■ 岩沼市「千年希望の丘」

目的： 掛川市が海岸部に整備を進めている津波対策の掛川モデルと同様の避難マウントと連絡路を繋いだ公園整備をしている「千年希望の丘」を視察。

掛川モデルと同様の植樹を行った木が育ち始めている。また、復興が目に見えて成果が出ている市街地復興エリアを視察した。

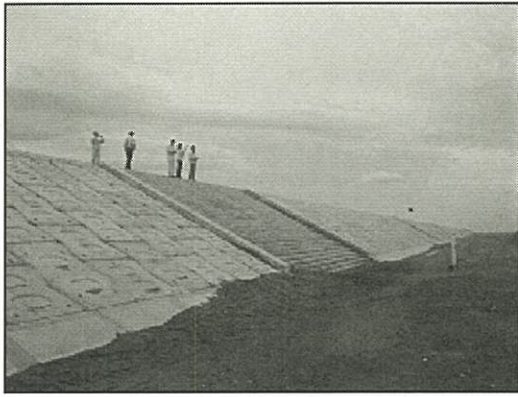
岩沼市副市長、岩沼市建設部長ほか2人の職員に対応いただき、千年希望の丘の公園整備の現状と将来計画、多重防御による津波への対策、住宅の復興、集団移転や災害公営住宅による市街地復興について、現場を見ながら説明を聞いた。

1 津波対策の現状

- ・ 植樹は掛川モデルと同じ宮脇先生の指導による宮脇方式により実施、苗木の成長は3年5か月で60cmから2.0mまで成長した。
- ・ 苗木は全て寄付によるもので、10万本を1万人の人が植えた。
- ・ 「千年希望の丘」事業に対する国の交付金はなかなか認められなかった。事業の実施は国の動きを待っていては間に合わないと思い独自に進めた。
- ・ 国、県が行う事業を待っていては早い復興はできない。基礎自治体が本気で実施すれば国も県もついてくる（掛川も同じスタンス）。
- ・ これからは、整備を継続しつつお金を落とす仕組みをつくっていく。
- ・ 現在、6つの丘（高台）が造成され、あと9つの丘の造成が計画されて、これらの丘が津波時の避難マウントとなり、これをつなぐ避難路が堤の役割を果たす。
- ・ 丘は造成土の8割に震災廃棄物から再生した資材を活用している。
- ・ 河川堤防の道路嵩上げは津波防御の役目を果たしており、海岸堤防と併せて多重防御として津波を防ぐ対策をとっている。
- ・ 多重防御策
 - ① 海岸防潮堤 TP+7.2m ② 千年希望の丘 TP+9.0m
 - ③ 河川堤防 TP+3.7m ④ 嵩上げ道路 TP+5.0m

2 住宅の復興

- ・ 被災6集落が新たに造成した市街地へ集団移転を行った。自己建築158戸、災害公営住宅111戸、その他67戸、約1,000人。
- ・ 災害公営住宅は、復興交付金災害公営住宅整備事業により、国3/4、地方1/4で建設でき、市単分は、起債対象である。
- ・ 入居者の家賃低廉化については、20年間2/3（当初5年は3/4）国が補助する復興交付金災害公営住宅家賃低廉化事業を利用している。



高さ7mの防潮堤



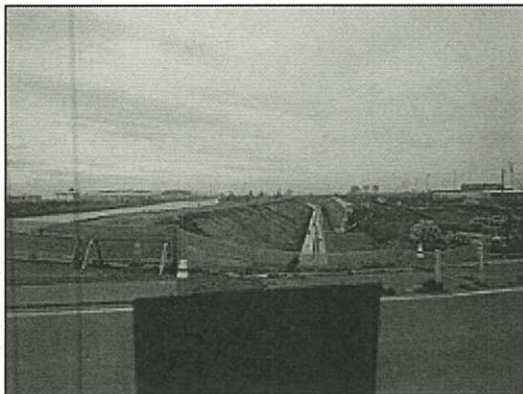
1万人以上が10万本を植樹



震災廃棄物を活用した丘



丘をつなぐ連絡路（堤防）



嵩上げ中の河川堤防の工事



【玉浦西区】災害公営住宅

2 岩沼市視察の感想

市街地復興エリアに近接する区画整理地では、価格が下がったこともあり売れ残っていた区画が売れて、新しい住宅が建ち始めている。市民が安心住める地域づくりとは、幾重にも整備される多重防御の津波対策であると感じた。

■ 福島県南相馬市

- 目的：① 「バチカンから日本へ祈りのレクイエム日本公演」の収益金を掛川市と生涯学習振興公社から南相馬市社会福祉協議会へ寄付を行う。
- ② 福島第一原発事故による原子力災害の被災地で、「帰還困難区域」、「居住制限区域」、「避難指示解除準備区域」の全てが指定されている南相馬市の災害時の原子力防災についての対応と現在の状況について把握する。

1 義援金の贈呈について

南相馬市長、南相馬市協議会会長ほか関係者が出席し、掛川市長及び掛川市生涯学習振興公社理事長から義援金の贈呈を行った。

「南相馬市社会福祉協議会会長の挨拶概要」

多額の義援金をいただき大変ありがたい。いろんな事業に役立て期待に添えるように頑張っていく。

「南相馬市長の挨拶」

掛川市の支援には感謝する。避難地域の指定があり「復興」という言葉はまだまだ時期が早いと思っている。国の原子力政策には不信を抱いている。福島第一原発事故が国の原子力政策を正すことに行動を続けていく。

「掛川市長の挨拶」

本来なら、3.11のあと、すぐに来たかったが遅くなって申し訳なかった。報徳サミットの一員として協力したいと思っていた。少ないお金であるが役立ててほしいと思う。



義援金贈呈式の様子

2 南相馬市の原子力災害対応について

福島第一原子力発電所の事故による災害の対応について、南相馬市の復興企画部長、危機管理課長ほか関係職員から説明を聞き、その後、南相馬市職員の案内により市内を視察し、除染作業の様子や津波の被災跡、除染作業で出たゴミ置き場の様子、居住制限地域解除後の様子を見学した。

「南相馬市復興企画部長の挨拶概要」

震災後4年8か月経ったが放射性物質の影響により未だ18,000人が避難しているその内12,000人が市外へ避難し、家族が離散状態となっている。その影響から人手不足となり、幼稚園や保育園、介護関係では今までと同じサービスができない状態で、期間採用の職員を増員したり、他の自治体からの応援職員により何とか運営している状態。

「掛川市長の挨拶概要」

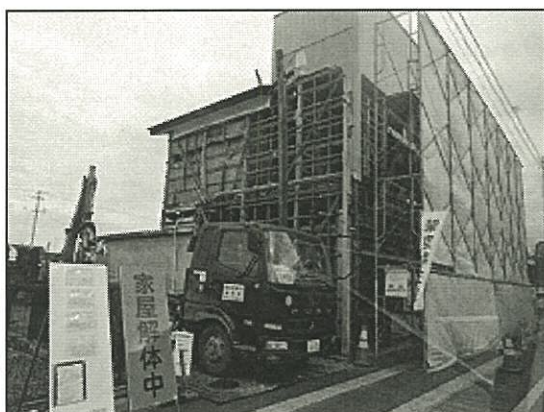
掛川市は30km圏内に全て入る。10km圏内の人口は1万人くらい。全ての市民を避難させる計画は極めて困難。災害弱者を何とか優先的に避難させることを考えている。

自治体の最大の責務は、市民の生命・財産を守ること、特に原発は、100%安全・安心が確認され、国が市民に対して説明し、市民が判断をした時に、首長としてどう判断するべきなのか考えている。

「南相馬市説明内容」

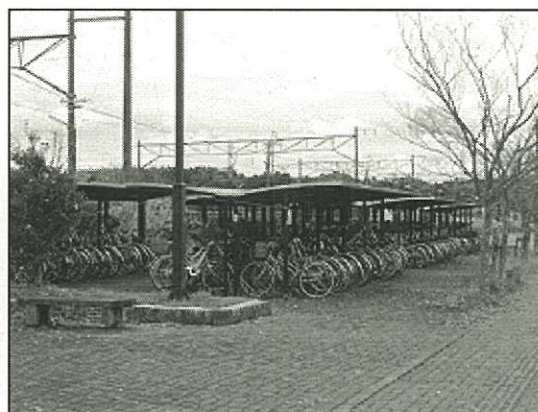
- ・ 南相馬市は屋内退避であったが、市民は自主的に避難した。屋内退避は徹底できない。
- ・ 人口72,000人が避難により一時10,000人になってしまった。
- ・ 避難行動要支援者には、市がバスを用意したが、福祉車両の用意はできず、多くは普通の大型バスを利用したため、移動中で亡くなる方も多く、災害関連死は約450人にもものぼった。
- ・ 医療機関や福祉施設はそれぞれ独自に避難先を探し避難した。
- ・ 放射線量は最大で $20\mu\text{Sv/h}$ 。
- ・ 職員や消防団は、広報車で屋内退避の呼びかけを行ったが、防護服やマスクも付けずに市内を回った。行政も、市民も原発についての知識がほとんどなかった。
- ・ 南相馬市は、避難対象地区ではなかったため、原子力災害の防災計画は作成していなかった。現在は、避難指示解除準備区域までを対象に計画策定を進めている。
- ・ ヨウ素剤は事前配布を考えているが、現状は県から自治体に配布されたものを保管している状態。各家庭にどのように配布するか課題。事故当時は避難指示が出されたため配布に至らなかった。ヨウ素剤は、放射性ヨウ素以外の放射性物質には対応できない。
- ・ 避難先は県外を考えているが、自治体レベルでは調整が困難、国が関与すべきと考える。
- ・ 発災時は東電との協定もなく独自に情報を収集していた。事故後協定を結んだ。
- ・ オフサイトセンターは線量が高く使えなかった。
- ・ 3月17日以降からガソリンなどの物資が入ってこなくなった。
- ・ 市立病院では内部に放射線を入れない工夫をして、医療対応を継続した。
- ・ 震災後、市は、任期付きの職員を100人採用し、県外からの応援職員を50人受け入れて業務にあたっている。

- ・ 避難指示解除準備区域は、申請を出せば居住することができ、現在 12,000 人が帰還した。しかし申請を出さないで住んでいる人もいる。
- ・ 除染作業で約 10,000 人が市外から働きに来ている。空き巣増加などの治安の悪化や交通事故の増加が問題になっている。
- ・ 来年 4 月の居住制限区域解除を目指している。
- ・ 除染作業で発生する廃棄物は、黒いフレコンバックに入れて、集積場ができるまでは自分の敷地内に保管しなければならず、分散して保管されている。



【小高区市街地】

家屋の解体作業や除染作業がいたる所で行われている



【小高駅前】

駅前に震災時から置かれたままの自転車

■ 国道6号の通過・富岡駅の視察

目的： 今年の 9 月に「帰還困難区域」の中を通る国道 6 号が通行可能となった。「帰還困難区域」内の状況を視察する。

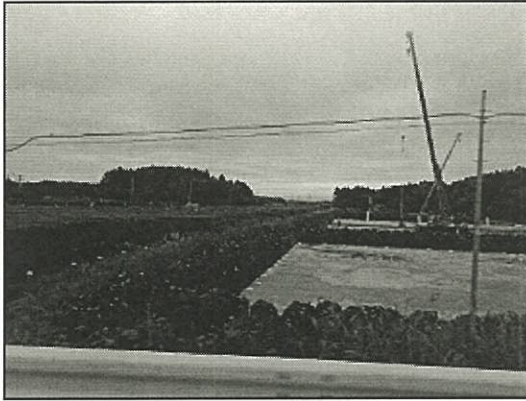
また、昨年全く復旧活動が行われていなかった富岡駅周辺の状況変化を視察する。

1 国道 6 号の通過・富岡駅の視察

浪江町、双葉町、大熊町、富岡町を車窓から視察した。道路の左右を見ると除染作業で出た廃棄物が、黒いフレコンバック（フレキシブルコンテナバック）に入れられいたる所に並べられていたり、脇道へ入れないように警察が警備していたり、バリケードが設置され、福島第一原子力発電所付近を通過した際は、放射線量が南相馬市より高いことを確認した。

掛川市内	約 0.02 μ Sv/h
南相馬市内	約 0.16 μ Sv/h
国道 6 号（車内）	約 0.8 μ Sv/h
国道 6 号（車外）	約 3.0 μ Sv/h

富岡駅跡地周辺では、被災後手付かずの住宅がまだ残っていて、解体が始まったばかりだった。



【浪江町付近】

除染廃棄物を集めて保管する作業



【富岡駅前】復興が未だに進んでいない駅前



【富岡駅前】工事車両が入り、解体作業を始めている

2 南相馬市・国道6号沿い視察の感想

南相馬市は屋内退避指示であったが、市民は自主的に避難して、7万人が一時は1万人程度であったと聞いた。また、数日で外から物資が入らなくなることもあって、市民に避難行動を取ってもらう難しさを確信した。

また、東相馬市の職員や消防団員が、震災当時は放射線の知識もないまま、災害対応をしていたことに驚いた。災害活動を実施する人は、基礎知識は身につけ、訓練をしておく必要があると感じた。

東日本大震災の復興状況は地域差が大きいですが、特に原子力災害の被災地では震災当時からほとんど手が付いておらず、復旧作業すら実施できずに放置されている。原子力災害は地震や津波とは被害状況が全く違い、復興には長い時間が掛かることを目の当たりにし、原発事故は絶対に起こしてはならないと改めて感じた。

8 視察を通じての感想

視察先と掛川市の置かれた状況は違うものの、災害対策の基本的な取り組みは変わらないことから、避難勧告のタイミングや避難場所・避難所の特定、要配慮者の避難などについての確かな情報提供につなげ、掛川市としての対策にしっかり繋げていく。

また、発災時の対応はマニュアルが基本となるものの、マニュアルにない対応も求められ臨機応変な対応が必要であることが感じられた。

視察で得た教訓は、危機管理部門に限らず、福祉、住宅、医療、土木など様々な分野の職員に提供していく。

掛川市地域創生総合戦略の策定について

1 策定の趣旨

(1) 国の地方創生

人口減少に歯止めをかけ、東京圏への人口の過度の集中を是正するため、国として「総合戦略」を策定するとともに、地方においても「地方版総合戦略」として、地方の実情に応じた自主的な施策を策定し、実施する責務を有するとされている。

(2) 第2次掛川市総合計画基本構想

第2次掛川市総合計画基本構想においても、直面している喫緊の課題として、「本格的な少子高齢・人口減少社会の到来」を掲げ、将来人口の目標値を掲げ、人口減少対策を今後10年間に重点的に取り組むべきこととしている。

(3) 地域創生総合戦略の策定

掛川市は、国から見た「地方」ではなく、掛川の「地域」に対する主体的な戦略として、「地域創生総合戦略」を策定する。また、同時期に展開する戦略的施策に整合性を持たせるため、地域創生総合戦略は、第2次掛川市総合計画に包含する形で策定する。

2 策定の経過

時 期		内 容
平成27年	6月～7月	平成27年度市民意識調査等の実施 「市民意識調査」、「高校生意識調査」、「転出入者調査」 「結婚・出産・子育て意識調査」
	7月	市議会6月定例会 総合計画基本構想の議決
	7月～10月	地域創生連携・推進会議 総合戦略（案）の検討
	8月	市議会全員協議会 総合戦略（案）について（中間報告）
	9月	市議会常任委員会協議会 総合戦略（案）について（中間報告）
	10月	市議会全員協議会 総合戦略（案）について
	10月30日	総合戦略の策定

3 総合戦略の概要

資料1

(1) 計画期間

平成27年度から平成31年度までの5年間とする。ただし、第2次掛川市総合計画の計画期間を鑑み、平成37年度（2025年度）の目標値を併せて示すこととする。

(2) 主な構成

①掛川市人口ビジョン（第1部）

人口の現状を分析した上で、人口の将来展望を実施し、将来人口を設定

将来人口	2025年（平成37年）	115,000人
	2040年（平成52年）	120,000人

②掛川市地域創生総合戦略（第2部）

ア 基本理念と将来像（第2章）

基本理念：協働のまちづくり

将来像：希望が見えるまち・誰もが住みたくなるまち掛川

イ 戦略方針（第3章）

戦略目標：3つの日本一「教育・文化」・「健康・子育て」・「環境」

施策の視点：協働・広域連携

戦略の柱：1 掛川への新しいひとの動きをつくる

2 掛川にしごとをつくり安心して働けるようにする

3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

4 明日の掛川をつくり豊かで潤いのある安心な暮らしを守る

ウ 重点施策（第4章）

重点施策：戦略の柱4項目を重点施策として設定

重点プロジェクト：重点施策において、重点的かつ横断的に取り組むべき事業として計18プロジェクトを設定

具体的な施策：重点プロジェクトを実現するための具体的な施策として計67施策を設定

(3) 主な特徴

①的を絞った戦略

国の地方創生関係予算の動向を踏まえ、限られた予算の中での的を絞った戦略となるよう、掛川の独自性、戦略期間内での効果、市民ニーズ等を踏まえた掛川の実態からの優先度の高さの3つの点を総合的に勘案し、掲載する事業を選択。

②重要な施策の継続的推進と新たな施策展開

本戦略により、重要な既存施策を着実に推進していくとともに、新たな施策展開を図っていく。

ア 重要な施策の継続的推進

- ・ 海岸防災林強化事業「掛川モデル」
- ・ 地震・津波対策アクションプログラム
- ・ 内陸フロンティアプロジェクト
- ・ 待機児童解消対策 等

イ 新たな施策展開

- ・ シティプロモーション戦略の策定及び戦略的な移住・定住の促進
- ・ 企業OBによる中小企業支援体制の構築（かけがわ生涯ワーキングシステム）
- ・ 子育てしやすい居住環境づくりや空き家の利活用などの住宅施策 等

3 今後の推進について

(1) 協働による推進

本戦略を推進するにあたっては、行政だけでなく、市民、地域、団体、事業者等の力が重要となることから、「掛川市自治基本条例」や「掛川市協働によるまちづくり推進条例」に基づき、協働により市全体で強力で推進していく。

(2) PDCAサイクル

数値目標及び重要業績評価指標（KPI）等を基に事業の進捗・効果等について着実に検証を行い、より効果的な戦略となるよう必要に応じて見直しを行う。

効果検証・見直しは、市民や外部有識者の参画を得て行うものとする。

担当者名	深田 貴子・住本 啓
電話番号	21-1127

掛川市地域創生総合戦略

目 次

第1部 掛川市人口ビジョン	1
第1章 掛川市人口ビジョンの策定にあたって	1
第2章 人口の現状分析	2
第3章 人口の将来展望	11
第2部 掛川市地域創生総合戦略	17
第1章 基本的な考え方	17
第2章 まちづくりの基本理念と将来像	18
第3章 戦略方針	20
第4章 重点施策	24
重点施策1 掛川への新しいひとの動きをつくる	24
重点施策2 掛川にしごとをつくり安心して働ける ようにする	30
重点施策3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望 をかなえる	36
重点施策4 明日の掛川をつくり豊かで潤いのある 安心な暮らしを守る	42

掛川市地域創生総合戦略

平成27年度 国地方創生先行型交付金の事業採択等について

1 交付金制度概要

地方創生先行型交付金（上乘せ交付分） 国26年度予算額（繰越）：300億円

総合戦略に盛り込まれた事業のうち、下記に該当する平成27年度実施事業

タイプⅠ：他の団体の参考となるような先駆的取組（補助率10/10）

タイプⅡ：平成27年10月末までに総合戦略を策定した場合（補助率10/10）

2 採択結果

(1) タイプⅠ（先駆的事业）

①かけがわ生涯ワーキングシステム事業 → **満額採択**

事業費：21,000千円

②お茶の健康機能を活用した販路拡大事業 → **不採択**

事業費：10,000千円

(2) タイプⅡ

①掛川市子育て世代向け住宅供給事業 → **満額採択**

事業費：10,000千円

3 県内市町の状況

(1) タイプⅠ

申請 事業数 25件（16市町） → 採択 事業数 15件（13市町）

事業費 5.1億円 事業費 2.6億円

(2) タイプⅡ

申請 市町数 20市町 → 採択 市町数 20市町

事業費 1.8億円 事業費 1.8億円

4 今後の推進について

申請をした3事業は、地域創生総合戦略の目玉事業であり、採択された2事業は、国交付金を活用し平成27年度より強力に推進していく。

なお、不採択事業についても、着実に推進し5年間で成果を出していく。

5 <参考>県内市町のタイプⅠ採択事業内訳

※県内市町のタイプⅠ採択事業

(千円)

市町名	事業名	事業費
静岡市	静岡型CCRC構想推進事業	20,000
静岡市	静岡都市圏広域DMO推進事業	15,000
浜松市	はままつ起業家カフェ運営事業	5,912
沼津市	リノベーションまちづくり推進事業	10,000
三島市	地域資源を活用した農と食による健康ビジネス創出支援事業	20,000
富士市	地域特産品を活用した新産業創出事業	4,000
磐田市	先端計測とAIシステムを活用した「営農」における「創客創人」事業	6,000
掛川市	じもと産業タスクフォースセンター(かけがわ生涯ワーキングシステム)事業	21,000
藤枝市	中心市街地～蓮華寺池公園～東海道藤枝宿・岡部宿をつなぐ 藤枝のおもてなしと街道文化ロマン創造事業	42,500
袋井市	「3Days Worker's Office」構想 ～2025年問題の解決と女性が活躍できる社会の実現に向けて～	10,000
裾野市	革新的薄層軽量緑化技術を用いた屋上緑化産業の育成による、地域の稼ぐ力の創出と移住定住の促進	50,000
伊豆の国市	「明治日本の産業革命遺産」情報発信アプリ制作連携事業	5,000
牧之原市	人がどんどん集まる仕組み構築モデル事業	5,945
南伊豆町	アクティブシニアのヘルスアップ・ステイ及び広域連携による日本版CCRC	39,000
南伊豆町	温泉・地熱資源の活用を中心とした南伊豆健康ブランドの創出	8,760
合計		263,117

1 かけがわ生涯ワーキングシステム (じもと産業タスクフォース)

1 地域創生総合戦略での位置付け

重点施策2 掛川にしごとをつくり安心して働けるようにする

重点プロジェクト2-1 みんなが働ける掛川創造事業 ※31ページ

重点プロジェクト2-2 しごとを生み出すイノベーション支援 ※32ページ

2 目的

地域に専門的な知識や技術等を持ったシニア人材が存在しているにも関わらず、そのポテンシャルを活かせていない。

中小企業は、長期間にわたる景気低迷やグローバル化の影響を受け、人材・技術・設備・販路等の面で多様な課題を抱えている。

そこで、専門的な知識等を持ったシニア人材が、中小企業の抱える課題に対し、実務支援（タスクフォース）やアドバイス等を行う地域産業力向上のワンストップセンターとなる法人「株式会社じもと産業タスクフォースセンター」を設立し、高齢者の生きがいづくりと雇用促進、中小企業支援を行う。

3 事業内容

- (1) 「株式会社じもと産業タスクフォースセンター」を、民間企業及び地元金融機関等の出資により設立する。
- (2) 市は、交付金を活用し、市場調査、備品購入、宣伝広告等、会社設立に伴う初期費用を負担することで、事業が円滑に開始できるよう支援する。
- (3) 人材は、各業界を退職したシニア人材（専門技術者等）を登録制により確保する。
- (4) 中小企業から経営や生産技術等に関する相談を受け、登録者の中から適切な人材を派遣し、課題解決のための実務支援（タスクフォース）やアドバイスを行う。
- (5) 3Dプリンターを設置し、市民やベンチャーのアイデアを具現化する機能を備えることで、開発、試作、販路開拓等の多面から起業を支援する。
- (6) 株式会社として持続可能な事業とするため、実務支援等の成果に対し報酬を得る。

4 狙い（効果）

本事業により、シニア人材は、退職後の生きがい及び働く場を確保することができる。

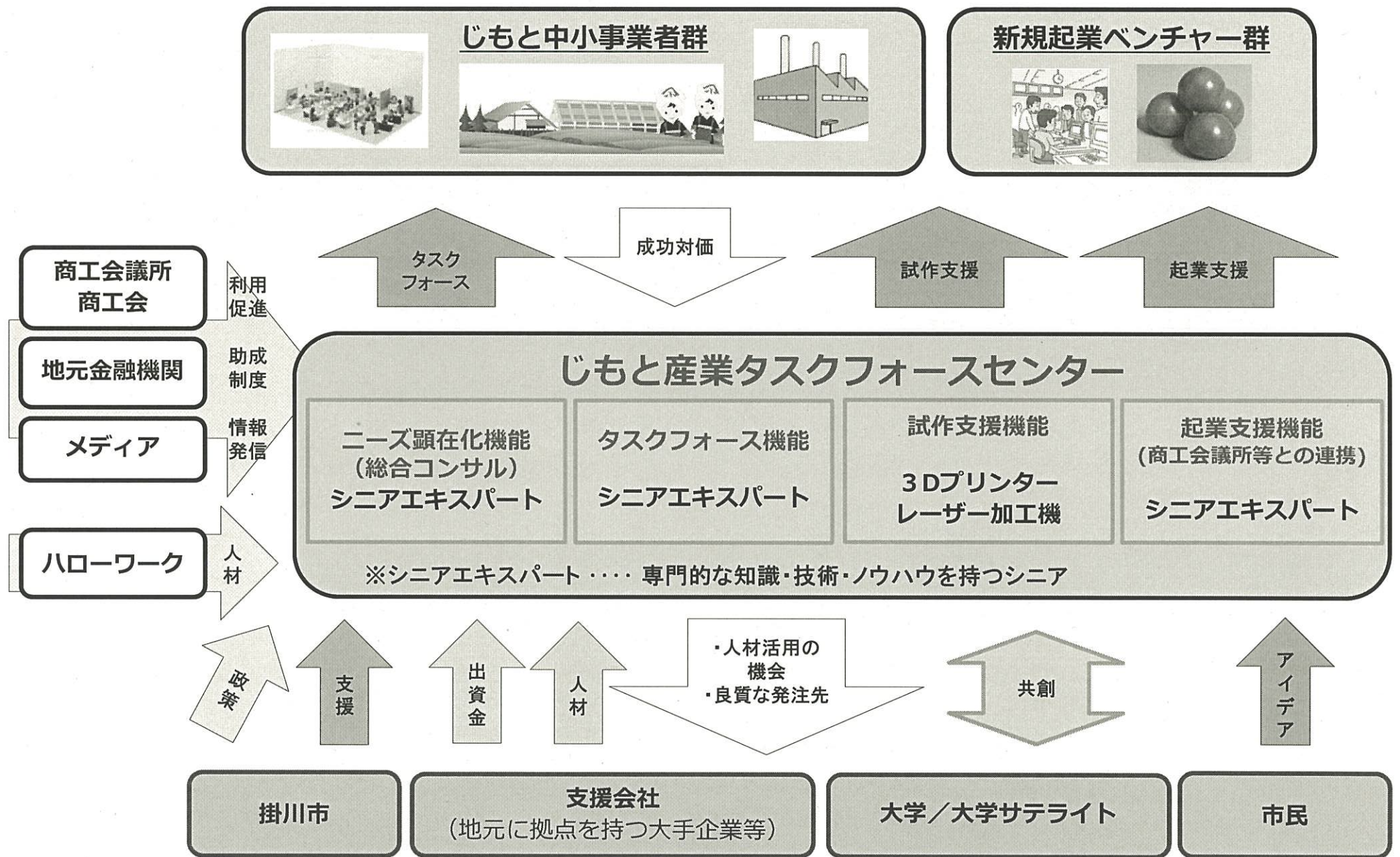
また、中小企業は、自社で有していない専門的な技術や情報、各種経営ノウハウを得ることにより、企業力の向上が期待できる。

5 平成27年度事業（見込み）

平成27年度事業費（見込み） 21,000千円

市場調査、宣伝広告、法人設立助成、備品購入 等

じもと産業タスクフォースセンターの枠組



※タスクフォースとは …… 特定の課題に対し、適任者を抜擢し、短期集中的に実務支援にあたること

2 掛川市子育て世代向け住宅供給事業

1 地域創生総合戦略での位置付け

重点施策3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

重点プロジェクト3-2 子どもは地域の宝 地域の子育て力向上プロジェクト
※38ページ

2 目的

掛川市において子育てしやすい環境を創出するため、子育て世代の居住環境に対する支援として、子育てに適した住宅を提供する。

3 事業内容

(1) ニーズの把握

子育て世代・住宅所有者へのアンケート等を実施するとともに、建築士、不動産業者、子育て世代の市民等で構成する検討委員会を設置し、最適な子育て世代向け住宅の条件を検討する。また、必要に応じ実態調査を行う。

(2) 供給計画の策定

- ・ 住宅設備基準の検討（敷地、設備、機能、基準等）
- ・ 住宅タイプの設定（分譲か賃貸か、賃貸の場合集合住宅か個別住宅か）
- ・ 管理方針・基準の検討（修繕計画、入居者管理計画、入居者の基準、家賃の設定等）
- ・ 助成制度の検討（住宅供給業者、子育て世代に対する補助制度の有無等）
- ・ 住宅供給事業者の募集・選定方法検討（募集方法、選定方法）
- ・ 要綱・要領等の作成（募集要項、制度要綱、整備基準等）

(3) 供給計画に基づく良質な住宅供給及び入居支援

4 狙い（効果）

子育てに適した住宅を供給し、子育て世代が望む環境の整備を進めることで、結婚・出産・育児に希望を持つことができる地域づくりに繋がる。

また、市外にも積極的にPRすることにより、子育て世代の移住・定住に繋がる。

5 平成27年度事業（見込み）

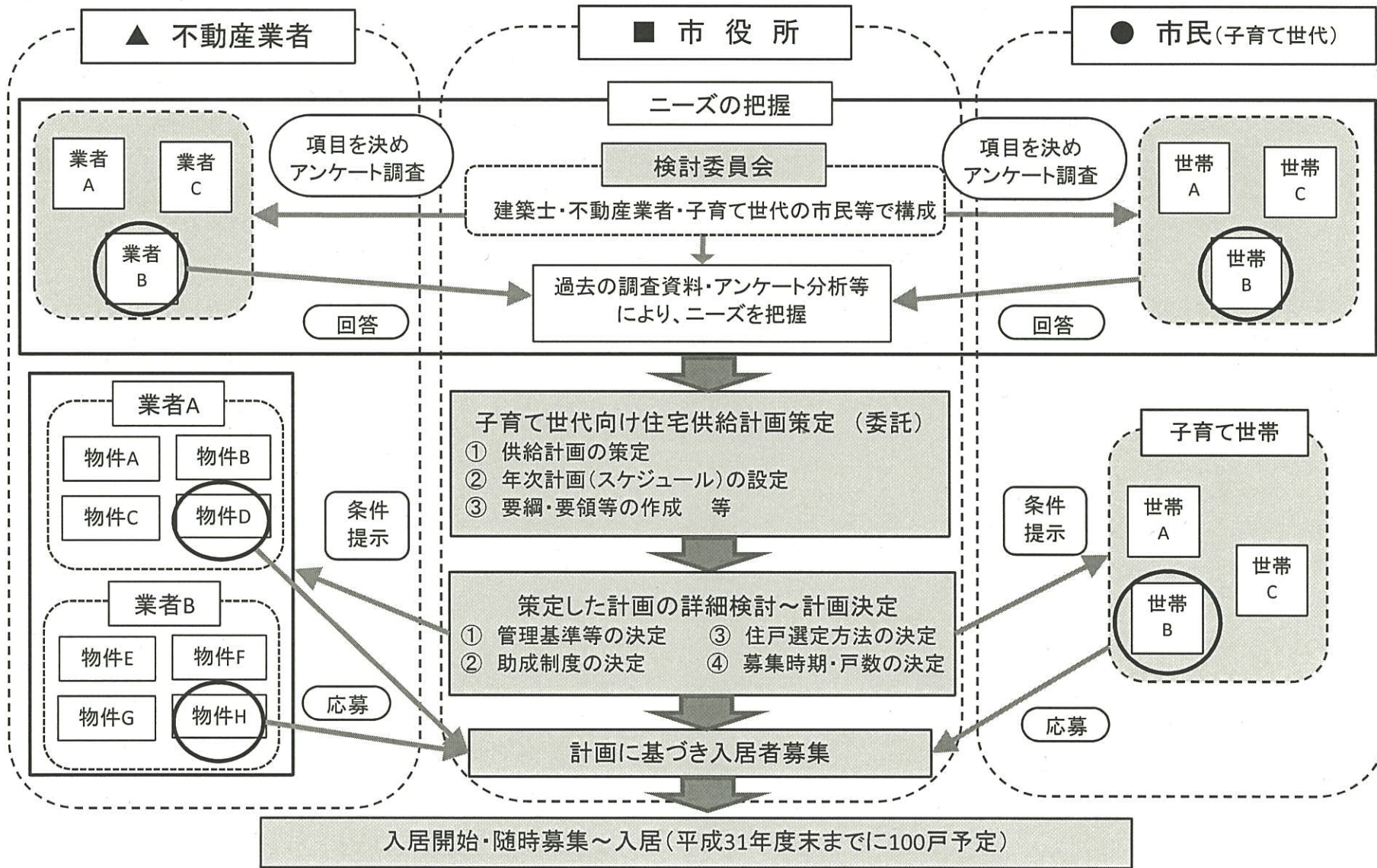
平成27年度事業費（見込み） 10,000千円

供給計画の策定（検討委員会開催経費、計画策定委託費）

6 スケジュール

項目	H27年度	H28年度～H29年度	H30年度～
ニーズの検討	アンケート 実態調査	実態調査	
住宅供給準備	計画策定	詳細検討	随時見直し
入居準備		住宅の選定 入居者募集	随時選定・見直し
入居		受け付け	受け付け

掛川市子育て世代向け住宅供給計画



3 緑茶の健康機能を活用した販路拡大

1 地域創生総合戦略での位置付け

重点施策2 掛川にしごとをつくり安心して働けるようにする

重点プロジェクト2-4 明日を拓く農 農業ビジネスの推進

※34ページ

2 背景

(1) 緑茶の消費

- ・ 団塊の世代が後期高齢者を迎える2025年に向けリーフ茶需要は激減
- ・ ペットボトル茶発売から30年経過のなかで商品とニーズが乖離
- ・ 嗜好品から抜け出せない商品展開

(2) 企業の健康経営

- ・ 企業ブランド向上や生産性向上、健康保険医療費削減に向け、健康経営意識の高まり
- ・ 労働安全衛生法改正によるストレスチェック制度
- ・ 経産省と東京証券取引所の健康経営銘柄選定

3 目的

お茶の有する健康機能を、企業の健康経営と結びつけ、本市の基幹産業である掛川茶(特に2番茶以降)の販路拡大を図り、茶価の安定を目指す。

4 事業内容

- (1) 消費者嗜好調査(地域、年齢、性別)
- (2) オフィス用簡易サーバーの民間開発を誘発
- (3) 嗜好別、機能性別簡易カートリッジ商品の民間開発を誘発
香り・旨み・苦渋の調整
カテキンによるメタボ改善・テアニンによるリラックス効果・カフェインレス等
- (4) 企業の保健指導のひとつとして緑茶飲用を組み込む
- (5) 健康データ連携アプリを活用しデータ収集
- (6) データを活用した商品改善、緑茶飲用効果をPR

5 狙い(効果)

- ・ 人口減少、女性の活躍といった背景のなかで家庭ではなく職場をターゲットとする。
- ・ リーフ茶を飲まない世代に対し、簡易に美味しく健康に良い緑茶消費の新たなマーケットや実需者を開拓する。
- ・ 企業の保健指導のひとつとして緑茶飲用を組み込むため、健康効果が実感しやすい。
- ・ リーフ形状にこだわらないため荒茶製造過程におけるコストダウンが可能とする。
- ・ 従来の10年連続産地賞の品質や文化で販売する一番茶と棲み分けが可能。



簡易カートリッジ



簡易サーバー



アプリ活用



データ収集



企業の新たな価値



掛川市 常葉大学
TOKOHIA UNIV.



掛川市と常葉大学との

包括連携に関する協定締結調印式の開催

掛川市と常葉大学は、産業、文化、教育等の分野で協力し、双方が有する資産を有効活用して、地域の活性化を図ることを目的とした包括連携に関する協定書を締結することとしました。その調印式を次により行います。

- 1 日時 平成 27 年 11 月 13 日 (金) 午後 3 時 30 分
- 2 場所 掛川市役所 5 階 庁議室
- 3 出席者 掛川市長 松井三郎 常葉大学学長 西頭徳三
掛川市副市長 浅井正人 常葉大学副学長 鈴木 治

■これまでの経緯と締結の趣旨

掛川市と常葉大学は、従来から、掛川市が主催する各種研修会への講師派遣や、文化振興に関する連携を行ってきました。今年に入ってから、かけがわ街づくり株式会社（掛川市長が社長）と協働で学生グループが模擬会社「人力車常葉組」を設立するなど、交流・連携が活発となってきました。

このような経緯等を踏まえ、両者が協働して地域の活性化等に資することを目的とした包括協定に関する協定書を締結することとしました。

■連携分野(予定を含む)

- 教育 ○地域活性化 ○健康・医療・福祉
- 子育て支援 ○食育・食文化 ○スポーツ振興 ○生涯学習

■今後の取組

- ・教育学部と教育委員会との協働で放課後支援プログラムの研究
 - ・まちづくり株式会社との協働による「人力車」の企画運営
 - ・友引ストリートカフェ、けっトラ市等の活動へのボランティア運営参加
 - ・こども希望部との協働で子育て支援活動
 - ・スポーツ指導者へのトレーニング理論等の講座の開設
 - ・健康栄養学科と協働して食育教育講座の開設
- 「連携推進会議」を設置し、上記の取組みのほかの具体的な取り組みについて話し合うこととする

■その他

掛川市は、大学と包括連携協定を締結するのは、常葉大学が初となります。
常葉大学が、地方自治体と連携協定を締結することは、松崎町に続いて2例目ですが、このように広範囲に及ぶ本格的な協定は初めてとなります。

(本件の問い合わせ先)

掛川市企画政策部企画調整課経営戦略係
Tel. 0537-21-1127 Fax. 0537-21-1167

(本件の問い合わせ先)

常葉大学 浜松キャンパス
Tel. 053-428-3511 Fax. 053-428-2900

第9回かけがわ教育の日

【事業概要】

平成19年度より毎年開催しており、第9回となる本年度は、「読書（家庭教育）」をテーマとした基調講演等を行います。（「教育の日」を制定しているのは県内は本市のみ。）

(1) 日時

11月21日（土）午前9時00分 開会

(2) 会場

大須賀中央公民館（西中央145）

(3) 本年度テーマ

～ 広げよう親子読書 つくろう我が家のお茶の間ライブラリー ～

(4) 内容

【第1部】9:00～10:05

○開会行事

- ・オープニングアトラクション 横須賀幼稚園「お茶の子さいさい茶きんちゃん」など
- ・「世界一短いメッセージ」表彰
- ・実践発表 お茶の間宣言を実現する子育てのあり方（掛川市社会教育委員会）

【第2部】10:20～11:30

○基調講演

講師：柳田 邦男（作家、評論家）

演題：「子どもの心の発達と絵本～家庭読書の大切さ～」

○かけがわお茶の間宣言

(5) 主催・協力

主催 「かけがわ教育の日」実行委員会・掛川市・掛川市教育委員会

協力 「かけがわ教育の日」協力団体協議会

【事業目的】

本市の教育振興基本計画「人づくり構想かけがわ」の基本目標「夢実現に向かう、心豊かで凜とした市民」の育成のため、学校、家庭及び地域の人々が一堂に会し、教育について大切さを考える機会とし、市民総ぐるみの教育の振興を図る。

【期待される効果】

市民一人一人が教育の大切さを理解し、それぞれの役割でかかわるとともに、学校、家庭及び地域の人々などが強い絆と深い信頼で結ばれ、学園化構想のもと、地域ぐるみの教育が推進される。

担当者名 豊田彰規・杉村省吾
電話番号 21-1109

平成27年度

掛川市制10周年記念事業

入場無料！直接会場へ

☆ 第9回かけがわ教育の日

～ 広げよう親子読書 つくろう我が家のお茶の間ライブラリー ～

「かけがわ教育の日」は、市民一人一人に教育の大切さを考えてもらい、行動するきっかけとなるように平成19年度から開催しています。第9回となる本年度は、「読書(家庭教育)」をテーマとして基調講演等を行います。多くの方のご来場をお待ちしております。



昨年度「第8回かけがわ教育の日」の様子

◆とき 平成27年11月21日(土) 9:00～11:30

◆ところ 大須賀中央公民館(西大淵145)

◆内容 【第1部】9:00～10:05

○開会行事

・オープニングアトラクション

「お茶の子さいさい茶きんちゃん」「茶金ちゃん音頭」
横須賀幼稚園年長児

・「世界一短いメッセージ」表彰

・実践発表

「お茶の間宣言を実現する子育てのあり方」
掛川市社会教育委員会

【第2部】10:20～11:30

○基調講演

講師:柳田 邦男(作家、評論家)

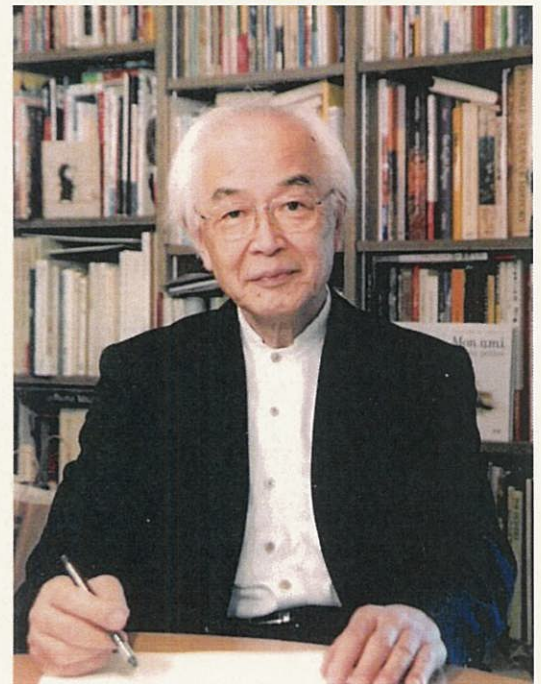
演題:「子どもの心の発達と絵本

～家庭読書の大切さ～」

○かけがわお茶の間宣言

■主催 「かけがわ教育の日」実行委員会・掛川市・掛川市教育委員会

■協力 「かけがわ教育の日」協力団体協議会



講師 柳田 邦男(作家、評論家)

お茶のまち掛川
マスコットキャラクター
茶のみやきんじろう



© 掛川市

☆ 中学校区学園化構想

～ 学校・家庭・地域が連携して子どもを育む教育 ～



市民総ぐるみで子どもを育てましょう！

かけがわお茶の間宣言

子育て・人づくりはお茶の間から



～ お茶の間で豊かな広がりのある人づくり ～

掛川市人権講演会

- 1 とき 11月22日（日）13:00開場 13:30開会
- 2 ところ 掛川市文化会館シオーネ 小ホール（大坂）
※プレス用の駐車場を確保いたしますので、御来場の際は駐車場の担当者にお声掛けください。
- 3 対象 一般市民（入場無料、事前申込み不要）
- 4 講演 講師：島田妙子氏（一般財団法人 児童虐待防止機構 理事長）
演題：「～被虐待の淵を生き抜いて～命の鼓動」

※虐待・肉親の自殺・いじめ・自閉症の子育て・老人介護・会社経営など…様々な経験を通して感じ、学んだことをもとに、「本当の意味で虐待をなくすにはどうしたらよいのか」をお話ししていただきます。

※講師プロフィール

両親の離婚・再婚、養護施設での生活、継母だけでなく実父からにもよる壮絶な虐待など、過酷な幼少期を過ごしながらも、持ち前のバイタリティで道を切り開き、現在は3人の子の母として育児と老人介護、そして会社経営をこなしておられます。

※出演など

mns産経ニュース『虐待を超えて タエコの40年』

MBSドキュメンタリー『映像'12』

MBS報道番組『VOICE』

web配信『覚悟の瞬間』

担当：社会福祉係
水野・田中
電話：21-1140

掛川市人権講演会

テーマ ～被虐待の淵を生き抜いて～ 命の鼓動

とき

平成27年 11月22日(日) 午後1時30分～3時(開場:午後1時)

会場

掛川市文化会館シオーネ (掛川市大坂7373)

講師

島田妙子氏 (一般財団法人 児童虐待防止機構 理事長)
株式会社イージェット代表取締役

講師プロフィール



著書 『e love smile ～いい愛の笑顔を～』

出演 著・msn産経ニュース『虐待超えて タエコの40年』6回連載・MBSドキュメンタリー『映像 12』・NHK大阪放送局『かんさい熱視線』・BSジャパン『グッドマザーズ』(H27.9/5、9/12放送予定)

～幼少期の過酷な経験～

両親の離婚・再婚、養護施設での生活、継母だけでなく実父からにもよる壮絶な虐待…。そんな経験をしながらも、常に前向きに【経験こそ財産なり】をモットーに、現在の日本が共に抱える問題に少しでも解決できる糸口を見出したいと願い、高齢者介護と自閉症の実子の子育てのなか、子ども産業を通じて各方面にて活躍中。また、[児童虐待オレンジリボン運動]の支援企業として、『子どもを救うだけではなく、本当の意味で虐待をなくすにはどうすればよいのか…』『虐待の世代間連鎖を止めるにはどうしたらよいのか…』皆様と共に考える場を作り、一人でも多くの方に関心を持って頂きたいと願っております。虐待、肉親の自殺、いじめ、自閉症の子育て、老人介護、骨髄ドナーへの挑戦、会社経営などの経験から感じ、学んだ「ココロのお話し」…幸せのオーラをお届けします。

会場案内



入場無料

お問い合わせ先

掛川市役所福祉課

電話 (0537) 21-1140

FAX (0537) 21-1163

主催

掛川市・掛川人権啓発活動地域ネットワーク協議会・掛川市教育委員会

定例記者会見
平成27年11月13日
生涯学習協働推進課

掛川国際交流フェスティバル2015

- 1 日時 平成27年11月22日（日） 午前10時～午後3時30分
- 2 場所 掛川市生涯学習センター
- 3 目的 (1) 世界の多様な文化に触れられる体験型プログラムを通し、国際的視野を持つ人材の育成を図る。
(2) 国籍を超えた市民や企業との協働による本イベントを通して、多文化共生のまちづくりに対する理解を深める。
(3) 掛川市の海外姉妹都市との交流活動や、国際交流団体・ボランティア団体の活動を紹介することで、市民の国際交流活動を推進する。
- 4 キャッチフレーズ 『ひとりひとりがクリエイター 国籍を超え人と人々が支え合うまち “かけがわ” を創ろう！』
- 5 内容 (1) 世界の料理・地球マルシェ
ブラジルやペルー、中国など色々な国の料理や海外の雑貨などの出店があります。
(2) 世界の音楽
南米の音楽やブラジルサンバ、地元横須賀高校の生徒たちによる郷土芸能を楽しんでいただけます。
(3) 異文化体験ワークショップ
タイのカービング(彫刻)アート体験や飲み物講座など、いろいろな国の文化を体験できます。

担当者名 山田京子・青木一仁
電話番号 0537-21-1129
内 線 2292

掛川国際交流フェス2015 ティンバール

Kakegawa International Festival

見て、聞いて、味わって、学ぶ。世界とつながる特別な一日!!
Let's look,hear,taste and learn. It is Special Day connecting to the world!!



入場無料
Free Admission

国籍を越え人と人が支えあふまちがクリエイター。
We're all creators. Nationality does not matter. Let's create a good town Kakegawa where we support each other.

Stage



音楽ステージ

Food



世界のフード

Work Shop



ワークショップ

Shopping



雑貨市場

Health&Safety

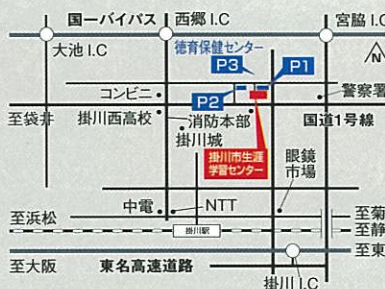


健康&安心

11.22 日

10:00-15:30

掛川市生涯学習センター
KAKEGAWASHI SHOIGAIGAKUSHU CENTER



多文化共生パスポートで旅しよう!!

アート・スタンプラリー

フェスティバルを一周して、世界のお土産をもらおう!

無料配布 LET'S PLAY A "STAMP RALLY" (a stamp collecting game) 先着500名

ウェブサイト

掛川国際交流フェスティバル 検索

<http://kakegawa-i-f.weebly.com/>



定例記者会見
平成27年11月13日
吉岡彌生記念館

吉岡彌生記念館 音楽会の日

表題の件について下記のとおり開催致します。つきまして、参加者募集の告知をいただきたくよろしくお願い致します。

1. 日時 11月23日（月・祝）①午前10時～11時 ②午後1時30分～4時
2. ところ 掛川市吉岡彌生記念館（下土方）
3. 内容 東京女子医科大学が東京女医学校時代、創立3周年行事として11月に催した音楽会にちなみ、音楽イベントを開催します。
 - ①「HIROと東村山のアコースティックコンサート」
シンガーソングライター「HIRO」と音楽好きの寄せ集めバンド「東村山」のアコースティックコンサートです。
 - ②「親子でチャレンジ！ 手作り楽器とミニコンサート」
親子で一弦ギターづくりに挑戦します。そのあとのコンサートで「HIROと東村山」のメンバーと一緒に楽しく演奏しましょう。
4. 対象 ①どなたでも 25名 ②小学3年～6年生の親子 10組
5. 受講料 無料
6. 申込方法 事前に吉岡彌生記念館へ電話にて申込。

〔主催・問い合わせ先〕 掛川市吉岡彌生記念館

TEL 74-5566 FAX 74-4841

休館日 月曜日・第4火曜日

（祝日の場合は開館、翌日休館）

定例記者会見
平成27年11月13日
商工観光課
環境政策課

第2回掛川市環境消費生活展「暮らしのフェスタ2015」

- 1 日 時 11月28日（土）午前10時から午後3時まで
- 2 場 所 掛川市生涯学習センター
- 3 目的、内容 「市民みんなが安心安全な暮らし」ができるように、市民団体・事業者・行政が協働で、くらしや環境に役立つ様々な情報を提供する。
1. 団体・企業による活動等の展示
 2. 各種コーナー
 - 木工教室等の体験コーナー
 - 地元農産物等の販売コーナー
 - 特製カレーの飲食コーナー
 - 働く車の展示コーナー
 - 税務、太陽光等の相談コーナー
- 4 主 催 掛川市エコ・ネットワーキング、掛川市消費者協会、掛川市

問い合わせ先

- 商工観光課商業労政係
担当者名 石山・国京
電話番号 21-1149
- 環境政策課環境政策係
担当者名 片山・神野
電話番号 21-1128

定例記者会見
平成27年11月13日
危機管理課

平成27年度 掛川市地域防災訓練

1 日 時 平成27年12月6日(日)

緊急地震速報	8:57 (同報無線)
地震発生	9:00 (同報無線)
大津波警報	9:05 (同報無線)
大津波警報解除	9:30 (同報無線)
市長メッセージ	11:45 (同報無線)
訓練終了	12:00

2 会 場

- (1) 「家庭の避難計画」に基づく避難訓練・・・避難場所、指定緊急避難場所（各地域の避難場所）
- (2) モデル地区による市民参加型訓練・・・日坂小学校広域避難所
- (3) 初動時救護所運営訓練・・・・・・・・・・西中学校、東中学校、桜が丘中学校、大東保健センター、大須賀中学校
- (4) 飲料水兼用防火水槽からの給水訓練・・・飲料水兼用防火水槽設置場所（12箇所）
- (5) 自主防災会の計画する訓練・・・・・・・・・・自主防災会の指定する訓練会場

3 訓練テーマ ～自助・共助、地域で高める防災力、死亡者ゼロのまちづくり～

4 目 的

東日本大震災で得られた多くの課題から、身を守るための行動を最優先とし、地域防災力の向上及び「自助」・「共助」の相互連携を図る。

5 想 定（静岡県第4次地震被害想定：レベル2の被害想定）

- (1) 平成27年12月6日午前9時頃、南海トラフ巨大地震が発生し、市内では震度7の揺れを観測、まもなく沿岸には最大13mの津波が襲来した。
- (2) 沿岸部の国道150号線以南は津波による浸水、市街地等では火災が延焼拡大しており、山間部の土砂災害警戒区域は土砂崩れによる道路の寸断により、孤立予想集落7地区において孤立が発生している。
- (3) 強い揺れ、火災等により約39%の建物が全壊・焼失し、市内全域で停電、断水が発生、電話回線及びインターネットによる通信は断続的に不通となっている。
- (4) 地域の避難所及び42の広域避難所には、物資・情報を求めた住民が集まり始め、負傷者も多数発生している。

6 主な内容

- (1) 「家庭の避難計画」に基づく避難訓練
「家庭の避難計画」に基づく避難訓練の実施・検証及び各家庭における、災害種別毎の避難場所について把握する。

(2) モデル地区による市民参加型訓練

日坂小学校広域避難所にて、下記の訓練を実施する。

- ① 自主防災会と消防署・自衛隊による消火訓練
- ② 自主防災会と消防署・消防団による救出訓練
- ③ 消防署による市民トリアージ訓練、女性消防団員による応急処置訓練

(3) 初動時救護所（5箇所）運営訓練

各自主防災会により初動時救護所搬送されてきた傷者（模擬）に、医師、歯科医師、薬剤師、看護師がトリアージや応急処置を行い、トリアージの結果に応じて中東遠総合医療センターへ各自主防災会が搬送を行う。

(4) 飲料水兼用防火水槽からの給水訓練

自主防災会により、飲料水兼用防火水槽からの給水を行う。

会場（12箇所）：塩町公園、駅南公園、大東支所、千浜小、大坂小、佐東小、新知川公園、七日町公園、つくし会館、大淵農村環境改善センター山崎農村環境改善センター、大須賀学校給食センター

(5) 協力機関との連携訓練

- ① B R N掛川・大東・大須賀による、初動時救護所への医薬品輸送訓練
- ② 陸上自衛隊（第34普通科連隊）への派遣要請（消火、炊き出し）訓練
- ③ 広域避難所等に、応急危険度判定士を派遣する。

7 参加機関 自主防災会、小笠医師会、小笠掛川歯科医師会、小笠袋井薬剤師会、中東遠総合医療センター、B R N掛川・大東・大須賀、中遠環境保全株式会社、掛川建設業協同組合、掛川市消防団、掛川警察、自衛隊、静岡県、災害対応協定締結市、掛川市及びその他関係機関

8 訓練の縮小または中止の決定

- (1) 東海地震に関連する情報が発表された場合、直ちに訓練を中止する。
- (2) 県内に津波注意報が発表された場合および掛川市で震度4以上の地震が発生した場合ならびに気象警報（大雨、洪水、暴風）が発表された場合は、直ちに被害情報の収集を行い、訓練の続行、縮小または中止を決定する。
- (3) 掛川市に津波警報が発表された場合および震度5弱以上の地震が発生した場合、直ちに訓練を中止する。
- (4) その他災害事案が発生した場合、当該事案の状況により訓練を縮小または中止する。

危機管理課 防災対策係 担当：山本・沢崎 電話：0537-21-1131
--

(掛川市男女共同参画推進事業)
平山 佐知子トークショー

- 1 日時 12月15日(火) 12:10~13:00
- 2 場所 掛川市役所2F. 3Fテラス
- 3 目的 男女共同参画の推進を図る上で、固定的な役割分担意識の変革と積極的に活躍できる女性の育成が重要である。これらに気づき、意識を持ってもらうために活躍されている女性を講師として招き、個人の興味関心を引き出したい。
- 4 内容 「輝く女性になるために、活躍する女性になるために必要なことは何か」をテーマとし、フリーアナウンサーの平山佐知子さんをお招きし、掛川市男女共同参画推進委員との対談形式のトークショーを実施します。
- 5 その他 事前申し込み不要、直接会場へ

担当者名 男女協働参画係
山田京子・川西真紀
電話番号 0537-21-1129

フリーアナウンサーとして活躍する平山さんをお迎えしてのトークショーを開催。

輝く女性になるために、活躍する女性になるために必要なことは何か。

魅力あふれる平山さんのトークをお楽しみください。

平山 佐知子

トークショー

12月15日(火)

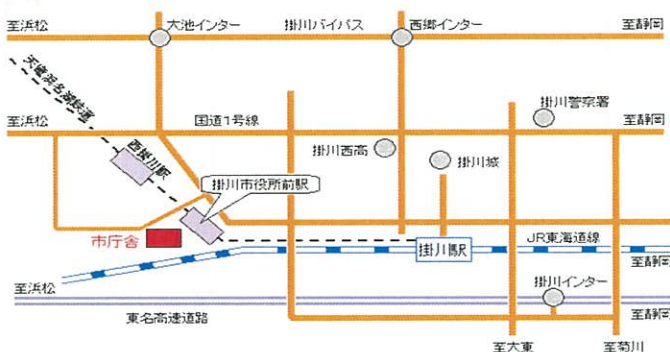


開場 11:45 **開演** 12:10
会場 掛川市役所 2F.3F テラス
対象 興味のある方はどなたでも
※事前申込み不要
主催 掛川市男女共同参画推進委員会
掛川市

(プロフィール)

平山 佐知子 (フリーアナウンサー)
大手楽器メーカー就職後、モデルとして活動しその後アナウンサーに、NHK静岡のキャスターを16年続け、現在はテレビ・ラジオ出演の他講演活動やイベントMCなど幅広くご活躍中。

(会場案内)



(問い合わせ先)

〒436-8650 掛川市長谷一丁目1番地の1
掛川市役所 生涯学習協働推進課 男女協働係
TEL 0537(21)1129 FAX 0537(21)1165
E-mail / kyodo@city.kakegawa.shizuoka.jp